

いかにして英文雑誌に論文を掲載するか？

大塚啓二郎

神戸大学大学院経済学研究科

日本経済学会

2019年10月13日

若干の自己紹介

- 専攻：開発経済学（アジアとアフリカ、農業と製造業をカバー）
- 年齢：71才
- 研究の特徴：現地調査型（約20カ国で現地調査）。
- 英文雑誌発表論文数：

136本	
うちトップ50ジャーナル	約15本（CL-Index）
うちトップ51～150ジャーナル	約70本（CL-Index）
- 論文の特徴：数学や計量経済学に比較優位はないので、論文ではテーマの斬新性、ストーリー性、論理性を大切にしている。
- 参考文献：「いかにして英文雑誌に論文を掲載するか」『農業経済研究』86巻2号、2014年、pp. 179-83.

心構えから

1. 英語のフィーリングがわかるようになるまで、大量に論文を読む。
2. Desk Rejectionや無礼で意味のないコメントでRejectされても、決してあきらめない。書き続ければ、書く力がつく。
3. コメントや自分の論文に対する批判に、謙虚に耳を傾ける。「意味のないコメント」と思ったコメントも良く考えると意味がある。
4. 読む人の立場に立って、文章を書く。「これでわかるかな？」自問自答を繰り返す。最低でも5回は原稿を書き直す。カッコイイ文章を目指さない。最も効率的に、言いたいことをわかりやすく読者に伝えることを心がける。徹底してEntertainerを目指す。
5. 重要な原則を守る。(1) 図表は、タイトルを含めてよく考え、Self-Explanatoryにする。(2) レフリーを予想しながらReferences をしっかり準備する。(3) One message, one paragraph の原則を守る。

Abstract をまず書く

- Abstractでは、論文の最大の貢献が何であるかを書く。
- 著者は、意外とそれがわかっていない。
- 論文の最大の貢献が認識できていれば、論文全体に筋が通る。
だから最初に Abstract を書くのがいい。
- 「Abstractの書き方」は、特にない。他の研究者の論文を読んだときに、いいAbstractに出会えば、頭の中にメモしておくといい。

決め手は「序」

- 「序」の目的は、論文の目的を「なるほど」と思わせるように述べることである。序がしっかり書けていなければ、Rejectされる。
- 論文の目的は、多くの場合、知っていることと知りたいことの「**知識のギャップ**」を埋めることである。
- 例1：理論的にはこれまでこういう議論がなされてきたが、現実問題としてきわめて重要な、AA については全く議論がなされてこなかった。本研究の目的は、なぜAAが起こるのかを解明することにある。
- 例2：多くの研究者はこれはXXであると考えているが、最近、YYであると主張する研究が報告されている。本研究の目的は、なぜこのような対立する主張が展開されているのかを究明することにある。

私が推薦するのは「起承転結」型

- 第1パラ(起) : どのようなコンテクストの中で、研究をしているか、「大きめ」の議論をする。
- 第2パラ(承の1) : 簡単なLiterature Review。どのような研究が行われてきたかを紹介する。
- 第3パラ(承の2) : 現実について議論し、文献が無視してきた重要な事象を指摘する。つまり、**Knowledge gap** をハイライトする。
- 第4パラ(転) : 「だからこういう研究をする」でしめる。

注1) 第4パラで、” The purpose of this study is” を説得力を持って述べるために、序の最初の文章から意識を持つ。

注2) 「序」に結論はないが、最後のパラで構成を述べてあとにつなげる。

注3) 最近では、第4パラのあとで、論文の貢献を述べるのが流行している。必要不可欠だとは思わないが、誤解を与えないというメリットはある。

ぐだいて言えば

第1パラ: あのねー

第2パラ: それでね

第3パラ: でもねー

第4パラ: だから

最後に

- 積極的に報告して、コメントをもらうことは非常に重要。「わがふり」は、なかなかわからないし、コメントから新しい知見を得ることがある。
- 分析で、「壁にぶつかったら」チャンス。理論と現実感覚とエコノメの知識を総動員して壁を乗り越える。
- 「結論」では、論文の貢献を過去形を用いて要約したあと、ポリシー・インプリケーションや今後に残された研究課題についてビシッと書く。